

釜石タクシー新社屋落成祝賀会

逆境からの職場再生 全国からの支援に感謝

(釜石タクシー支部)

2014年4月20日 新社屋落成祝賀会で、「全国からの支援」に感謝。



東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県釜石市の釜石タクシー（小沢社長）が4月20日、新社屋落成祝賀会を開き、職場の再建に向けた節目を祝いました。

2011年3月11日、釜石タクシー本社を津波が襲いました。

社屋と保有台数の3台を除く全てのタクシー車両が流出になり、従業員の中には家族を失った仲間や、自宅を流され、今も仮設住宅での生活を余儀なくされている仲間がいます。小沢社長も避難生活の中、震災直後には廃業を決意せざるを得ない状況でした。しかし、釜石タクシーの後藤委員長や岩手地本の森委員長の「職場を残したい」という熱意に触れ、事業の継続を決意しました。

労使が協力しあい、再生への道のりを歩み出しました。



逆境の中、全自交の支援はもちろんのこと、全国からタクシー車両の提供や、カーナビの提供を受け、事業を継続しました。

その後、復興支援の補助金を使って新車を揃え、新社屋も完成しました。

現在では、震災以前の営業収入を上げるまでになりました。



この日の祝賀会には、全自交の伊藤委員長、松永書記長らと車両やカーナビを提供した秦野交通（神奈川県）の佐藤社長が招かれ、再生に向けた釜石タクシー労使の並々ならない努力に敬意を表し、関係者の労をねぎらいました。

小沢社長や後藤委員長をはじめ釜石タクシーで働く仲間は全国的な支援に心から感謝し、再生に向けた決意を再度固めました。

